

2月16日(土)

第1会場 10:30~11:30

植込み型デバイス委員会 登録評価部会セッション

JCDTRから見てきた日本のデバイス植込みの現状とNew JCDTRへの継承

座長 三橋 武司 自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科
横式 尚司 市立札幌病院循環器内科

演者

1-1. JID-CAD 中間解析

三橋 武司 自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科

1-2. JID-CAD 中間解析

甲谷 友幸 自治医科大学循環器内科・成人先天性心疾患センター

2. 一次予防植込みにおける非持続性心室頻拍の意義

石橋 耕平 国立循環器病研究センター心臓血管内科部門不整脈科

3. 我が国における S-ICD 植込みの現状；欧米との比較

横式 尚司 市立札幌病院循環器内科

4. New JCDTR の紹介と今後の見通し

三橋 武司 自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科

Japanese Cardiac Device Therapy Registry (JCDTR) は 2006 年から日本不整脈学会の主導で開始された多施設参加の大規模な登録制度である。現在までに 20,000 例を超える登録があり、我が国における ICD/CRT-D のデータを今までに多く発信してきた。今回の登録評価部会セッションでは今までの問題点として我が国の虚血性心疾患に対するデバイス治療の妥当性を検討すること、非持続性心室頻拍の意義や皮下型除細動器 (S-ICD) の意義などを議論することなどを主な討論点とした。以上のように今まで多くのデータを発信してきた JCDTR であるが、昨今の臨床研究では倫理委員会の承認がない今までのデータをそのまま使用することができなくなった。そこでこの JCDTR も各病院の倫理委員会の承認を得て 2019 年から新たに New JCDTR として継続されることになった。最後に New JCDTR の目的や運用方法を紹介する予定である。

第1会場 13:40~15:10

植込み型デバイス委員会 リード関連検討部会セッション

リード抜去の新しい展開

座長 庄田 守男 東京女子医科大学循環器内科
今井 克彦 呉医療センター・中国がんセンター心臓センター心臓血管外科

演者

1. 日本循環器学会ガイドラインの概要

合屋 雅彦 東京医科歯科大学不整脈センター

2. 非感染症例に対するリード抜去

南口 仁 大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学

3. リード抜去手技の応用

岡田 綾子 信州大学付属病院循環器内科

4. リード抜去手術のニューデバイス

西井 伸洋 岡山大学大学院医歯学総合研究科先端循環器治療学講座

5. 日本におけるリード抜去の現状：J-LEX 登録制度の紹介と最新データ

草野 研吾 国立循環器病研究センター心臓血管内科

リード抜去手術が通常医療として日本に導入されてから10年が経過した。当初は限られた施設で主に感染症例に適用されていたが、徐々に実施施設が増加し非感染症例にも実施されるようになってきた。現時点では国内で年間500例以上の治療が行われるようになり、2017年にはHRSのリードマネジメント・エキスパート・コンセンサスが改定され、今年度には日本のガイドラインが公表される予定である。日本に導入されてから短期間でこの新しい医療が成熟しつつある状況において、もう一度その適応や手技を再確認しながら今後の展開を占ってみたい。

ディベートセッション

2月16日(土)

第1会場 8:30~9:30

ディベートセッション1

ILRと長時間Holter

座長 西崎 光弘 関東学院大学学院保健センター/小田原循環器病院

中島 博 千葉西総合病院不整脈センター/一般財団法人日本デバイス治療研究所

演者

1. Pro: ILRを積極的に活用すべき

古川 俊行 聖マリアンナ医科大学東横病院失神センター・心臓病センター

2. Con: 長時間モニタを応用すべき

大江 学治 産業医科大学循環器内科

第1会場 9:30~10:30

ディベートセッション2

リード抜去は積極的に行うべきか

座長 庄田 守男 東京女子医科大学循環器内科

今井 克彦 呉医療センター・中国がんセンター心臓センター心臓血管外科